

広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

3

平成13年
(2001年)
月号
NO.532



パソコンで便利だね

コンピュータを使って本の検索（町立図書館）



地域で“きらり”と 輝く子どもたち

昨年6月、元気な産声をあげて中学生ボランティアサークル『きらり』が誕生しました。「自分たちのできることをできる範囲で、無理せず、楽しくやっ
ていこう」をモットーに活動しています。

今月は『きらり』の取り組みを紹介しながら、中・高校生の地域ボランティア活動について考えてみたいと思います。

中学生ボランティアサークル 『きらり』のメンバー

【写真上左から】

鈴木希衣子(3年・元町)、佐藤亜妃(3年・西原)、阿部恵理(3年・西原)、堀和子(3年・舟渡)、遠藤美月(2年・栗木沢)、鈴木裕子(2年・松程)

【写真下左から】

渡辺知子(3年・西原)、長岡真美(2年・太郎三)、鈴木茜(2年・本町)、清野幸(2年・古楨)、早坂こずえ(2年・大谷五)

【手前】澤美有紀(3年・常盤)

特集 ● 中・高校生のボランティア活動を考える

地域で“きらり”と輝く子どもたち

地域単位のボランティア活動が さかんな山形県

山形県では、地域を単位とした青少年のボランティア活動がさかんです。他県では学校単位で活動するのが普通で、このようない取り組みは珍しく、「山形方式」と呼ばれています。

昨年十二月に県教育庁が調べた『地域青少年ボランティアサークル一覧』によると、県内四

十二市町村で七十三のサークルがあり、千百九十三人が加入しています。年代別にみると、中学生九、高校生三十六、青年七、複合十一サークル。現在休止中のサークルは十団体あり、朝日町の高校生ボランティアサークル『とちつぽ』もその一つです。

『とちつぽ』が、町の青少年 ボランティア活動のはじまり

昭和五十四年に結成された『とちつぽ』。朝日分校生五人からスタートした町の高校生ボランティアサークルです。子ども

三十人。寒河江や山形に通う高校生も加わり、活動の内容も充実していきました。

映画会や明鏡荘への訪問など、地道な活動を続けていくうちに輪が広がり、徐々にメンバーが増えていきました。多い時で約

しかし、朝日分校の閉校とともに会員が減少し、平成十一年四月、二十年以上続いた活動をやむなく休止せざるをえなくなりました。

中学生ボランティアサークル 『きらり』の誕生

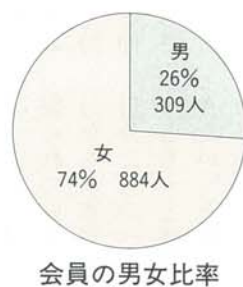
子どもたちはボランティアに関心がないわけではありません。興味はあっても、取り組むきっかけがつかめないのです。

昨年六月、町教育委員会は、

「高校に入る前から地域ボランティア活動を体験してほしい」と、中学生ボランティアサークルのメンバーを募集しました。チラシを作り呼びかけたところ、

県内地域青少年ボランティア サークルの現状

中学生	9サークル	複合	11サークル
高校生	36サークル	休止	10サークル
青年	7サークル	計	73サークル



県教育庁社会教育課調べ

三年生の女の子たちが応えてくれました。最初は三人。その後友だちを誘って六人になり、秋には二年生も加入し、合計十二人で活動しています。

サークルの名前は『きらり』。自分たちの活動が地域の中で、『きらり』と輝くものになってほしいという願いをこめて付けました。彼女たちの熱い思いが込められた名前です。

今年度は、町立図書館での紙芝居やクリスマス子どもまつりなどの人形劇の発表、ふれあい荘でのボランティア活動、ブルタブとアルミ缶回収を行いました。

なかでも人形劇の発表は、おはなし会『ぶなの実』のみなさんの指導を受けて一生懸命取り組みました。

また、「車いすを施設に贈ろう」と、ブルタブとアルミ缶の回収にもがんばっています。集めたものをリサイクル業者に買い取ってもらい、得た資金で車いすを購入し、施設に贈ろうという活動です。アルミ缶三万個（約五百キロ）で車いす一台が購入できるそうです。この活動は生徒会の協力を得て、朝日中学校全体で取り組むようになりました。彼女たちの小さな活動が大きな広がりとなってきています。



人形劇の発表に向け猛練習



ふれあい荘での活動



いきいきと楽しく活動するメンバーたち

「保育園や老人ホームに行つて何かしてみたいねって友だちと話をしていた時に、ちょうどチラシが届いた。これだ!」と思つて迷わず応募しました(渡辺知子さん)「学校でやるボランティア活動だけでは何だか物足りないような気がしてた(佐藤亜妃さん)「友だちが誘ってくれたので、人のためになるならと思いつて参加しました(清野幸さん)と、サークルに入つた動機はさまざま。

「特にがんばつたのはブルタブ集め。早く車椅子と交換したいから、宮宿地内のごみ箱を見て回りました。道路に落ちていた缶も拾つて集めました(阿部恵理さん)「人形劇の時に司会をしました。慣れない司会だったけれど、私の問いかけに子どもたちが応えてくれて、とてもうれしかった(堀和子さん)「ふれあい荘の夏まつりで売店のお手伝いをしました。ふだんできない仕事ができちゃった(澤美有紀さん)と、みんないきいきと活動の様子を語っています。

「子どもたちやお年寄りの笑顔を見るだけでうれしい。私たちも自然と笑顔になるし、元氣がでる」(遠藤美月さん)「実際に老人ホームなどを訪問してみると、今まで知らない世界を見ることができ、勉強になった(長岡真美さん)「私たちが学ぶこともたくさんある。ふれあい荘に行つた時、おばあちゃんからおしほりのたたみ方を教えてもらいました(渡辺知子さん)と、活動のなかで得るものも多いようです。

『きらり』のみんなと接して

おはなし会『ふなの実』
長岡早苗さん(太郎三)



「人形劇を教えてほしい」と申し出があり、私たちは喜んで引き受けました。せっかくやるなら、12月16日のクリスマス子どものつどいを目指してやってみることにしました。でも、メンバーは受験を控えた中学3年生が中心。舞台練習たったの2回で本番を迎えることになり、ちょっと不安に思っていました。

セリフをしっかり暗記してきた子、すっかり役になりきっている子。本番当日の彼女たちはとても気合が入っていました。私たちも音響などを手伝いながら見守っていましたが、会場の子どものかけ声や応援で盛り上がり結果は大成功。

彼女たちの笑顔がとても印象的でこれからも彼女たちをサポートしていきたいと思っています。

育てていきたい 中・高校生のボランティア活動

地域とのつながりが極端に薄れる中・高校生活。特に高校生は「子ども会は卒業、でも青年会はまだ」という子どもと大人のちようど間にいる年代です。

地域活動に参加して、いろんな人と出会うことは、自己形成をする上でとても重要なことですが、参加する機会はなかなかありません。朝日町の高校生は

「三年生といつしよの活動に最初は緊張しました。でも、三年生は同じ仲間として普通に接してくれました(鈴木裕子さん)「おはなし会のみなさんからは、いろんなことをやさしく教えてもらいました(鈴木茜さん)。

「学校でもボランティア活動をやっているけど、時間も内容も限られている。『きらり』では自分たちが本当にやりたい活動を自分たちのペースでやれる。もっとも活動の輪を広げたい」と話し、仲間が増えることを願っています。



『とちっぼ』OG 阿部貴子さん(20歳・常盤)

自分自身に プラスとなった ボランティア活動

平凡な高校生活を変えたいという思いからボランティアのセミナー合宿に参加した私は、合宿終了時にすでにサークルを作る意志を固めていました。理由は、セミナーに参加しているボランティアサークルの人たちがとても楽しそうで魅力的だったこと。そして、みんなの話を聞いていると、学ぶべきことがたくさんあったからです。

活動をする前は、「ボランティア福祉」とか「ボランティアはしてあげるもの」という考えの方が強かったのですが、活動が続けていくうちにそれだけがボランティアの形ではないと感じ、また、「受ける人の気持ち」も考えるようになりました。

今回、中学生ボランティアが発足されたそうですが、やりたいと思ったことをとりあえずやってみてほしいと思います。活動をしていく中で多くのことを学ぶことができると思います。

私も朝日町ボランティアサークルのOGとして、少しでもみなさんの力になれたらと思っています。そして、ただ今活動休止中の高校生ボランティアサークル『とちっぼ』が再活動されることを期待しています。

おはなし会のみなさんといっしょに



中学生ボランティアサークル

『きらり』からのお願い

車いすを購入するため、プルタブとアルミ缶の回収をしています。町民のみなさんもぜひ協力してください。アルミ缶は中をすすぎ、つぶさないでビニール袋に入れてください。そして、近所の中学生に渡してください。ご協力をお願いします。



町外の高校へ通わなければならない「家と学校の往復だけで三年が過ぎてしまう」という声をよく聞きますが、ちよつと寂しいような気がします。

『きらり』の三年生は、「できれば高校生になっても続けたい。みんなといっしょにボランティア活動をしていきたい」「高校生になれば会える機会が少なくなってしまう。けれど、ボランティア活動を続けていけばまた会える。いろんな高校の情報が聞けて、今よりもっと楽しい集まりになる」と話しています。

また自主的な活動とはいっても、彼女たちの活動には支えが必要です。とちっぼOB・OG会を結成しようというバックアップの動きもあるようですが、このような取り組みはとても大切なことです。

身近なところから

はじめてみようボランティア

人のため、社会のため、そして、何よりも自分のためになるボランティア活動。あれこれ考えるより、まずは行動してみませんか。

「何かしたいけど何をすればいいかわからない」「勉強と部活だけでなく、生活に変化がほしい」「これからボランティアを始めたい」「ボランティアは今までしたことがあるが、もっといろんなボランティアを体験してみたい」こんな人は、朝日町のボランティアサークルに入って活動しましょう！

メンバー募集

中学生ボランティアサークル『きらり』と、高校生ボランティアサークル『とちっぼ』のメンバーを募集します。

興味のある人は、創遊館窓口へレッツゴー！遊びにきてね。

◆問い合わせ先
町教育委員会生涯学習課

(☎ 67-2118)

世界の情報を 自宅でキャッチ

パソコン講習会に243人参加



国の施策を受けて実施されたパソコン講習会

最近よく耳にしませんか、「IT(情報通信技術)」という言葉。パソコンや携帯電話が普及し、私たちの暮らしの中に急速に広まっています。

先日、「ITを身近で体験してもらおう」と町主催のパソコン講習会が開かれました。平日二日間コースや土日コース、仕事帰りに学べる夜間一週間コースなど町民のみなさんが受講しやすいように十一のコースを設定。二月から三月にかけて創遊館を会場に行われ、延べ二百四十三人が参加しました。

受講生は二十代の若い人から七十代後半の方まで幅広く、また、まったくの初心者からあ

る程度操作経験のある人までとさまざま。講習は電源の入れ方から始まり、文章の作成、インターネットの利用と主に初心者を対象にした内容で、受講生たちは専門の講師の指導のもと、時間がたつのも忘れて真剣に取り組んでいました。

パソコンや携帯電話を使って情報の発信、収集ができるインターネットは、時間と距離の壁を乗り越え、多くの人たちと交信できる新たなメディアです。

国では、二年後の二〇〇三年までに自宅や職場からインターネットで各種申請や届出ができるよう整備しようとしており、今後さらにIT化が進み、テレビやファックスなどの家電製品と同じようにパソコンが使われる時代になると予想されます。

パソコン講習会は、平成十三年度も引き続き行う予定になっていますので、受講されていない方はぜひ参加ください。詳しい内容は後日お知らせ板でご案内します。



清野町長も勉強中

人生を楽しく 生きるために

第十三回 生涯学習推進大会

一年の学習活動を振り返る生涯学習推進大会が二月二十五日に創遊館で開催され、約三百五十人が参加しました。

はじめに、町民大学の履修者六十三人を代表して鈴木みよさん(西町)に履修証書が手渡され、長岡京子さん(西町)、渡辺美好さん(四ノ沢)、渡辺たま子さん(送橋)、清野フジさん(送橋)、相座薫さん(送橋)、阿部隆夫さん(常盤)、阿部美年さん(太郎三)、阿部タカエさん(松程)に特別賞が贈られました。

引き続き、山形県緑を育てる女性の会代表柿崎ヤス子さん(67歳・真室川町)の「自然とわが人生」と題した記念講演が行われました。農業を営むかたわら、自宅近くの山林を開放してボランティア活動を行っている柿崎さんは、日々の暮らしぶりを紹介しながら「農村生活と自然の厳しさの中から楽しさを生み出し、逆境を自分の力で解決していくように努めています」と自

身の前向きな生き方を語ってくれました。

最後に、女性文化教室大正琴教室のみなさんが日ごろの学習活動の成果を披露。また、朝日マラソンクラブ会長の齋藤和彦さん(杉山)がジュニアマラソンクラブの取り組みを、JAさがえ西村山女性部朝日支部長の佐藤秋恵さん(宿)がりんごジュースの加工販売活動状況などをそれぞれ発表しました。



大正琴教室のみなさんが学習活動の成果を発表



P T A会長の清野英司さん（古槇）を囲んで

送橋小PTAが 東北表彰を受ける

送橋小学校（中川秀子校長・児童数20人）父母と教師の会が、東北PTA連絡協議会長表彰を受けました。

校舎裏にある子どもの森を手づくりで整備するなど、子どもたちの健全育成のため、父母と教師が互いに協力し合いながら活動を行ってきたことが認められての受賞です。



立木小 環境やまがた賞を受賞

立木小学校（黄木定校長・児童数5人）が、平成12年度環境やまがた推進ネットワーク西村山地域賞（代表／高橋和雄県知事）の表彰を受けました。

ヤマメの飼育や朝日川の生物調査の実施など、朝日川を大切にする活動が認められたものです。



和合小が 交通安全優良校に

和合小学校（高橋勝昭校長・児童数62人）が、平成12年度交通安全優良学校として県知事表彰を受けました。

児童一人ひとりが交通事故にあわないように気をつけ、また、地区・保護者・学校が互いに連携しながら子どもたちの事故防止に努めていることが評価されての受賞です。

【町史編さん委員会】

編集委員を兼ねる

委員長	横山 昭男（山形大学名誉教授）
副委員長	伊藤 清郎（山形大学助教授）
委員	阿部 正義（元高等学校長、松程）
〃	今井 俊助（元中学校長、前田沢）
〃	今野 優（町文化財保護委員、本町）
〃	鈴木 勲（県文化財保護指導員）
〃	堀 敬太郎（郷土史研究家、大谷一）

【町史編集委員会】

委員	佐竹 伸一（教員、常盤）
〃	菅井 進（農業、考古学、沼向）
〃	高橋 郁夫（小学校長）
〃	北畠 教爾（西村山地域史研究会会長）
〃	登坂 高典（町文化財保護委員、ハツ沼）
〃	田宮 浩（教員）
〃	金山 耕三（高等学校長）
〃	鈴木 久夫（町芸術文化協議会長、沼向）
〃	五十嵐義一（町文化財保護委員、舟渡）
〃	安藤 昭郎（小学校長、西町）
〃	長岡 信悦（町教育委員会主幹、常盤）
〃	榊 壽太（行政相談員、大谷一）
〃	山内 励（高校教員）
〃	佐藤 正道（農協理事、宿）
〃	松尾 亮蔵（森林組合参事、松原）
〃	佐竹 桂一（県埋文化財センター調査研究員）
事務局	生涯学習課
〃	鈴木 治郎（町史編さん専門員）嘱託
〃	海野 寛（町史編さん専門員）嘱託

平成十六年度発刊に向けて

『朝日町史』編さん・編集委員会を組織

平成十六年に朝日町誕生五十周年を迎えることから、記念事業として『朝日町史』（上下巻各八百ページ）を発刊することになりました。

このたび、関係団体の代表者や有識者二十三人に委嘱状を交付し、編さん委員会と編集委員会を組織。委員長に横山昭男山形大学名誉教授が選出されました。

今年四月より執筆活動をスタートさせ、約三年半かけて編集作業を行い、平成十六年度中に発刊する計画になっています。

町史編さんは、昭和四十七年より専門員を嘱託して資料の収集にあたり、昭和六十三年には、それまでの成果を

『朝日町史』の発刊が期待されます。

まとめた『朝日町の歴史』を出版。その後も資料の収集に努め、新たな町史編さんの準備を進めてきました。



タイヤチューブで雪遊び



三月十日、朝日自然観の中央広場で「そり大会」と「雪玉投げ大会」が開催されました。

そり大会は、雪上に描かれた直径10mの的めがけて傾斜二十度の斜面を滑り降り、止まった地点の得点を競い合うカーリング方式で行われました。タイヤチューブのそりはバランスが取れるものの思った方向には進まず四苦八苦。スピードを押さえながらねらうものまで届かず苦笑いする場面も多く見られました。

午後からは雪玉投げ大会を開催。子ども四m、おとな八m先のめがけて雪玉を投げ、中央をうまく通過したらくじ引きができるというもの。大当たりの大型カラーテレビ獲得めざして参加者たちは真剣な表情でをねらっていました。



スピードをつけて傾斜を滑り降りると、ジェットコースターにのっているような感じ

雪上に描かれた大きな的。止まったところが点数になり、3回滑った合計得点で競われる



お父さんといっしょにそり遊び。「楽しいよ〜」



豪華賞品を手にする入賞者。優勝者には特大ずわいがにが贈られた



雪玉をチューブの真ん中めがけて投げる。
野球部だったという彼はうまく通することができるか!?



テレビをゲットしたのは長井市から訪れた親子。
「ラッキーです。また来年も参加させてください」



的の先に待っているのは、テレビや図書券などの
豪華商品



ファンタジーゲレンデと
レストハウス「大空」の営
業を三月二十五日(日)ま
で延長します。
ファンタジーゲレンデに
はスノーボード専用コース
を新たに設けました。レー
ルやボックスなどがあり魅
力いっぱいコースです。
残り少ないスキーシーズ
ン。滑り納めはぜひ朝日自
然観スキー場で。

**自然観スキー場
よりお知らせ**
3月25日(日)まで
滑走可能

まちの話題

① 第5回スノーランタンコンテスト



やさしい光に心をこむスノーランタン



最優秀賞に輝いた上郷小のみなさん

冬ならではの 楽しいイベント

2月11日、スノーランタンコンテストが創遊館の南側広場で行われました。「あり余る雪を活用し、冬ならではの楽しいイベントをしよう」と、町の

商工会青年部と女性部が開いたもので、親子連れなど20グループ100人が参加。小雪が降る中、参加者たちは2時間かけて『戦艦ヤマト』や『ハムタロウ』『お城』などを作製しました。審査は会場を訪れたみなさんの投票で決定され、最優秀賞には上郷小学校2年生親子の作品『ギリシャのお城』

が選ばれました。

また今年は「見学する人も楽しんでもらえるように」とさまざまなイベントを企画。雪玉の重さを当てるゲームではピタリ賞に輝いた3人のみなさんに賞金が贈られました。夜空には大輪の花火が打ち上げられイベントをさらに盛り上げました。

③ ワインのタベ



ほほ ロゼ色に頬を染めて

町商工会女性部主催のワインのタベが2月24日に町農業団地センターで開かれました。

フルートとエレクトーンの生演奏が優雅な雰囲気を醸し出す中、料理を味

わいながらグラスを傾ける220人の参加者たち。ステージ上では社交ダンスも披露され、会場を大いに盛り上げていました。

うっすらとロゼ色に頬を染めたワイン愛好者たちは、朝日町ワインの味と香りに大満足の様子でした。

② 年賀ハガキで一等当選

新世紀に福来たる

長沼の海野久さん方で、お年玉つき年賀ハガキの一等賞が当たり、2月21日に西五百川郵便局（大井英樹局長）より、28型平面ブラウン管ワイドカラーテレビが贈られました。

海野さんは「仙台に住む友人から届いたハガキが当たりました。新世紀早々縁起がいいですね。今年は良い年になるのかな」と、思いがけないプレゼントにとっても喜んでいました。



デジタル放送対応の最新型テレビ

④ イースターエッグ作り講習会



キヅカという道具を使って蜜ろうをのせ絵柄を描く



細かい模様と色彩が魅力のイースターエッグ

ダチョウの卵が 芸術作品に

「ダチョウの卵」と「蜜ろうそく」を使って、新たな特産品を作ろう——。

2月19・20日の両日、西部公民館と創遊館を会場に『イースターエッグ』

作り講習会が行われました。町エコミュージアム研究会が中心となって企画したもので、東京都在住の増田一子さんを講師に招き開催しました。

卵のカラに魚や動物、幾何学模様などを描き色鮮やかに仕上げるイースターエッグ。下絵の上に溶かした蜜ろうをのせ、染料に浸し、乾いたら熱を当

ててろうを溶かし取り、絵柄を白く浮かび上がらせるという「ろうけつ染め」の手法で作られます。

参加者たちはろうをのせる作業に苦勞しながらも見事な作品を完成させ、「ダチョウの卵がこんなふうを活用できるとはビックリ」「町のおみやげ品にしたいね」などと話していました。

⑥ 国民体育大会で入賞

バイアスロン競技で6位に

長野県で行われた第56回国民体育大会冬季大会のバイアスロン競技会スプリント競技で、菅井源三郎さん(小原)が6位入賞を果たしました。

バイアスロンは距離スキーと50m先の的をねらう射撃を組み合わせた体力と集中力が必要なスポーツです。

「今年の冬は大雪のため本業のりんご栽培の方が忙しく、あまり練習ができなかった」と菅井さん。国体通算3度目の入賞にも「たまたまですよ。それに、競技人口も少ないしね」と控えめ。今後の目標は「平成16年に山形県で冬季国体が行われるので、リレーのメンバーとして出場すること」だそうです。ますますがんばってください。おめでとうございます。



表彰状を手に菅井さん

⑤ いもがわ少年教室「スノートレッキング」



雪山にも春の気配

3月4日、いもがわ少年教室の第4回講座が行われ、自然観の上方にあるサイズチ峰までトレッキングに出かけました。

朝8時30分、かんじきとストック、弁当を持ってエアートップゲレンデを元気よく出発しました。ウサギやタヌキ、カモシカなどの足跡を発見したり、やどり木のことを勉強しながらゆっく



り歩いて山頂に到着。正面に広がる朝日連峰の大パノラマを眺め、持ってきた弁当と温かい豚汁を食べました。

途中の林では、ブナの根元から雪がとけだし、タムシバの芽がふくらみはじめるなどの光景がみられ、雪山にも春の気配が感じられました。

みんなのひろば



真中／
布施 貴之さん
憲子さん

新婚さん

「隠しごとのない友だちのような夫婦になりたい」と笑顔で話す二人の出会いは、スノーボードでケガをした貴之さんが、憲子さんの勤務する病院に入院したことがきっかけでした。退院の時、お互いの電話番号を交換しましたが、1カ月位何の連絡もなく、憲子さんが忘れていたところに貴之さんから電話が入ったそうです。

「嫁さんと子どもで、3人以上人口を増やすぞ」と頼もしい貴之さん。「歩いていける所にコンビニが欲しい。朝日町の夜は静かすぎてちょっと淋しい」と話す憲子さん。

交際記念日の5月4日に披露宴を行うという二人の夢は、親子でスノーボードをすること。憲子さんもボードが大好きで、特に自然観の斜面は滑りやすくお気に入りだとか。ぜひ、朝日自然観スキー場で夢をかなえて欲しいものです。

すてきな仲間たち

ふれあい市場「サンに市」

68

採れたての自慢の品々をおすそわけ



昨年8月からスタートした『サンに市』。農家や主婦などが愛情を込めて作った、旬の野菜や果物、手工芸品などを販売しています。

昨年は売ろうとしたものが売れず、意外な商品に人気が集まるなど、商売の難しさ、おもしろさを体験しました。昨年の反省をし、より喜んでいただけるよう出店者一同パワーアップして今春の開催に向けて下準備を進めているところです。

お客様とのふれあいが何より楽しい『サンに市』は、「採れたての自慢の品々をおすそわけ」をテーマにしています。みなさんお気軽にお越しください。

- ◆開催／4月29日より毎週日曜日（9：30～11：30）
- ◆場所／創遊館前
- ◆問合先／NPO町エコミュージアム協会
（☎67-2118 内線521）

「姫椿」

浅田次郎 著

ベットに死なれた独身OL、不況で自殺を図る経営者、妻に先立たれた大学教授、凍てついた心を抱える人々に救いの手はさしのべられるのか。

「敵討」

吉村昭 著

老中水野忠邦とその手足になつて手腕をふるった鳥居耀蔵による天保の改革を背景に、幕末の政争と社会情勢の変遷を克明に浮かび上がらせる。

「捨てない生活」

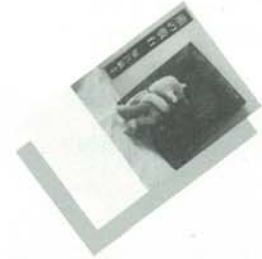
クライン・孝子 著

環境先進国といわれるドイツ。幼稚園からゴミについての教育がある。ドイツ人の環境への取り組みとはどんなものか、環境問題を中心にドイツ人のライフスタイルを紹介する。

芥川賞受賞作

「熊の敷石」

堀江敏幸 著



今月のおすすめ
町立図書館新刊案内

- ▶ BONSAI 寄せ植え(山口まり) ▶ ウツティライフを楽しむ101のヒント(日本林業技術協会)
- ▶ 冬晴れの街(赤瀬川準) ▶ 玉蘭(桐野夏生) ▶ 妖精愛(谷村志穂) ▶ 煤の中のマリナ(石年礼道子)
- ▶ 海へ(南木佳士) ▶ 隣人(重松清) ▶ 脳死移植はどこへ行く(向井承子) ▶ もりていばんつよいのは？(アケセル・シェフラー) ▶ 9番地のチャールズのおはなし(ジョン・ハセツト)

新刊

休館日

毎週月曜日と
3/31(土)

12

となりの りんごせん

作・ホリイ (142)



桜井 豊 くん
(朝日中3年・大谷五)

ひとことトーク

インターハイと
箱根駅伝出場が目標

トップアスリート
めざして

朝日中学校には陸上部がなく、町のマラソンクラブの方の指導を受けて本格的に陸上を始めました。

昨年は県大会で優勝し、十月に横浜で開催されたジュニアオリンピックにも県代表として出場することができました。また、今年一月には都道府県対抗男子駅伝のメンバーに選ばれ、広島まで行ってきました。この駅伝大会では、全国のレベルの高さを改めて知り、自分自身とてもよい経験になりました。

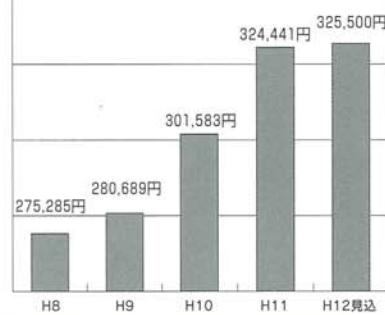
四月からは高校生として、インターハイ出場を目標に練習し、全国に通用するアスリートになれるようがんばります。そして四年後には、大学駅伝で箱根を走れるような選手になりたいと思います。

健康と福祉 (9)



国民健康保険の医療費

朝日町一人当りの年間医療費の推移



医療費の節減を

医療費が年々増加しています。朝日町の国民健康保険加入者の一人当たりの医療費はグラフのとおりですが、今後増加が予想されます。

医療費の増加にはいくつか理由があげられます。

- ・人口の高齢化などにより、受診者が増えている。
- ・医学の進歩や高度化により、診療にかかる費用が増えている。
- ・生活習慣病など、長期治療を必要とする人が増えている。

お医者さんにかかる ときのポイント

医療費が増加する理由には、一つの病気でいろいろな医療機関にかかったり、薬をたくさんもらったりなど、お医者

さんのかかり方によるものもあります。しかし、これは、私たちのちょっとした心がけで防ぐことができます。

- ・緊急な場合を除き、時間外や休日受診はなるべく避けましょう。
- ・かかりつけのお医者さんを持ちましょう。
- ・お医者さんを信頼し、指示を守りましょう。
- ・定期的に健康診断を受け、病気の早期発見、早期治療を心がけましょう。

国民健康保険の四割はみなさんからいただく国保税によってまかなわれています。日ごろのお医者さんのかかり方をもう一度チェックして、適切な受診を心がけ、医療費の節減に努めましょう。

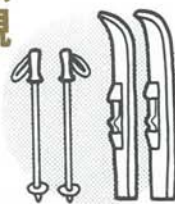
健康福祉課 国保医療係

(☎ 67-2116)

朝日自然観

ジュニアスキー大会

〈2月24日 朝日自然観スキー場〉



▼4年男子

- 1位 阿部 大樹 (西五百川小)
- 2位 鈴木 勝貴 (和合小)
- 3位 渡辺 一輝 (上郷小)

▼4年女子

- 1位 石井 亜弥 (大谷小)
- 2位 阿部友里恵 (西五百川小)
- 3位 齊藤 聡美 (西五百川小)

▼5年男子

- 1位 白田 駿 (大谷小)
- 2位 白田 智史 (大谷小)
- 3位 五十嵐 朗 (大谷小)

〃 海野 哲也 (西五百川小)

▼5年女子

- 1位 熊谷 幸子 (西五百川小)
- 2位 志藤 彩音 (西五百川小)
- 3位 志藤穂菜美 (大谷小)

▼6年男子

- 1位 遠藤 潤人 (大谷小)
- 2位 長岡 龍 (宮宿小)
- 〃 佐竹 翼 (立木小)

〃 堀 敏也 (大谷小)

▼6年女子

- 1位 志藤 渚 (大谷小)
- 2位 齋藤 智美 (上郷小)
- 3位 阿部 夏姫 (西五百川小)



がんばった人に 各種大会成績

町民卓球まつり

〈1月18日 町民体育館〉

▼小学男子シングルス

- 1位 海野 郁巳 (西船渡)
- 2位 阿部 大樹 (常盤)
- 3位 長岡 弘晃 (松程)

▼小学女子シングルス

- 1位 佐竹さくら (松程)
- 2位 鈴木 美咲 (常盤)
- 3位 佐竹 聡美 (常盤)

- 〃 齊藤 遥可 (常盤)
- ▼中学男子シングルス



町民囲碁大会

〈2月10日 町開発センター〉

▼Aクラス

- 1位 小関崇夫六段 (栄町)
- 2位 鈴木三郎三段 (西町)
- 3位 清野正幸三段 (本町)

▼Bクラス

- 1位 長岡 茂二段 (太郎一)
- 2位 鈴木二男初段 (助ノ巻)
- 3位 武田光雄初段 (栄町)

図書券
が
当たる

広報
クイズ



【問題】

- ①右の写真。「○○○○講習会」
- ②スノーランタンコンテストの最優秀作品は「○○○○のお城」
- ③三月二十三日に宮宿地内で開かれる「○○市」

【応募方法】

正解を「広報あさひまち」の折り込みハガキに書いて送ってください。正解者の中から抽選で三人の方に図書券をプレゼントします。また、広報記事に対する感想や、みなさんの「入学式、入社式の思い出」なども書き添えてください。お待ちしております。

【二月号の答え】

- ①ハッ沼 ②とつふ ③中学生
- 【応募者総数】二十五人
- 【当選者】長岡利平さん(松原)・吉田早希さん(西船渡)・榊まちのさん(大谷二)



すこやかに

(出生届)

区 名	出生児氏名	性別	保護者名
大谷一	白田 みのり 実	女	元
太郎一	長岡 ゆき 佑希	女	孝 司
大 町	安藤 はやと 颯	男	則 行
松 程	佐竹 なおや 尚哉	男	秀 文
太郎二	長岡 ゆずき 柚希	男	清 彦



おしあわせに

(婚姻届)

鈴 木 透	松 田 繭 子
(栄 町)	(寒河江市)
成 原 一 弘	大 竹 由 佳
(西 町)	(栗木沢)



やすらかに

(死亡届)

区 名	死亡者氏名	世帯主
助ノ巻	布 施 みや子	計 衛
前田沢	安孫子 重 雄	重 尚
古 楨	清 野 秀 代	忠 夫
大谷四	五十嵐 祐 太	政 已
今 平	阿 部 辨 治	一 男
宇津野	村 山 美喜雄	喜平治
沼 向	佐 藤 満 雄	直 義
下芦沢	渡 邊 久 雄	秀 雄
今 平	鈴 木 おさだ	本 人
松 程	長 岡 堅 吉	睦
元 町	渡 邊 良	和 博

●掲載を希望しない方は、お届けの際にお申し出ください。

人口と世帯数

●平成13年2月28日現在

人 口	9,507人(減 18人)
男	4,730人(減 10人)
女	4,777人(減 8人)
世帯数	2,582戸(減 4戸)

() 内前月比

くらしの知恵袋 ③7



3時のおやつに ピッタリ!

りんごを使ってお菓子をつくろう

2月16日、りんご農家の女性を対象にした『レディースセミナーアップル講座』が町開発センターで開かれ、りんごを使った調理実習が行われました。

レシピを紹介しますので、みなさんもお試しください。

りんごのドーナツ

【材料：20個分】

りんご……………1個	砂糖……………大さじ2
レモン汁……………1/4個分	ホットケーキミックス…200g
卵……………1個	サラダ油……………大さじ1
牛乳……………大さじ2	揚げ油
シナモンシュガー	ブリッツ

【作り方】

- ①りんごは皮をむき芯をとり20個に分け、砂糖、水1/2カップ、レモン汁を加えて煮る。(ラップをして電子レンジで3分位)。汁気をきって冷ましておく。
- ②ボールに卵、サラダ油、牛乳を入れて泡立て器でよく混ぜる。ホットケーキミックスに入れる。
- ③木ベラでざっと混ぜてから手でこねる。粉っぽさがなくなったらひとまとめにして、ラップをかけて10分ほどおく。
- ④③を20等分にし、それぞれ丸めて直径4cmの円に伸ばす。その中に①のりんごを包んで丸める。
- ⑤160℃の油でゆっくり色よく揚げる。
- ⑥油きりした後にシナモンシュガーをまぶし、ブリッツを短く折って刺し、軸にする。

カスタードリんご

【材料：6人分】

りんご……………3個	水……………1カップ
砂糖……………大さじ3	レモンの輪切り……………2枚
ワイン……………少々	
カスタードソース	
小麦粉……………大さじ1	砂糖……………30g
卵黄……………1個	牛乳……………1カップ

【作り方】

- ①りんごは縦2つに割り、スプーンで芯をくり抜き皮をむく。
- ②底の広いナベに水、砂糖、レモン汁を入れて煮立て、りんごを加えて弱火で20～25分煮る。煮終えたら火を止め、そのまま冷やす。
- ③ナベに小麦粉、砂糖を入れて混ぜ、卵黄を少量の牛乳で溶いて加える。残りの牛乳を加え、全体をかき混ぜながら弱火にかける。木ベラでかき混ぜながらとろみがつくまで煮て、冷ましておく。
- ④りんごを器に盛り、③のカスタードソースをかける。



ひなかつり

(写真は元禄びな)

昔、紅花商人の手により京都や大阪、江戸の町から運ばれたひな人形。最上川の舟運によって朝日町にも美しいひなが降り立ちました。

毎年、町内に残る貴重な古代びなを一堂に集めて一般公開を行っています。時のロマンたさその姿を、ぜひ間近でご鑑賞ください。

- 期間／3月23日（金）～4月1日（日） ●場所／大丸屋旅館（大町）
- 時間／午前9時～午後4時 ●料金／大人100円、中学生以下無料
- その他／ひな市が3月23日（金）に宮宿地内で開催されます

朝日町のまつり 写真コンテスト結果発表

〈出品総数／82点〉

▼最優秀賞

「歴史ある獅子舞」

白田 和夫さん（大谷二）

▼優秀賞

「かぐら舞」

三浦 吉夫さん（山形市）

「空気澄む」

安藤 堅一さん（寒河江市）

「信心」

石井 廉二さん（山形市）

▼入選

「空気まつりリハーサル」

高野 健男さん（山形市）

「春祭り」

小笠原 弘さん（長井市）

「佳日」

戸塚 喜八さん（新庄市）

「春の息吹」

長岡とし子さん（西町）

「ウワ 大きかったア」

布施 宗一さん（山形市）

「出番前」

渡辺 成一さん（寒河江市）

「奉納舞」

海谷 定信さん（山形市）

▼佳作

「神輿の行列」「夫婦神楽の舞」

「古代の夫婦神楽」

白田 和夫さん（大谷二）

「祭りが通る」「伝統が舞う」

安藤 堅一さん（寒河江市）

編集後記

『大沼の浮島の魅力と未来を考える』という特集を掲載してから約一年。大沼区に新たな展開があった。雅楽を発表するから聞きに来て」との誘いを受けて二月三日、大沼文化祭に出かけた。

『浮島神社雅楽の会』。メンバーは十人。月三回の練習を始め



て半年、今日がデビューの日。「ヒュー」。笙（しょう）、竜笛（りゅうてき）、箏（ひちりき）が奏でる独特の音色。静かに目を閉じると、平安時代にタイムスリップしたよう。地区民の挑戦は一步一步進んでいた。大勢の聴衆の前で発表できる日も近そうだ。その日を楽しみに待ちたい。

(F)